

令和6年能登半島地震で被災した保育所等に“楽しい”を届ける活動

団体名●連ゼミナール／代表者名●連桃季恵（人間科学部こども学科・講師）

はじめに

本活動は、令和6年1月1日に発生した令和6年能登半島地震において被災した保育施設に、音楽や劇などによる“楽しい”を届けることを目的としている。将来保育士を目指す学生と保育士養成に携わる教員は何かできるのかともに考え、昨年度から継続的に実施している。

活動内容

【第1回目：7月30日(水)ゼミ生6名、教員1名】

昨年度に引き続き4回目となる輪島市立松風台保育所を訪問した。今回は「おおきなかぶ」を題材に、夏の風物詩“スイカ”を盛り込んだオリジナルの台本を作成し、披露した。その後、子ども達や保育士の方々とスイカ割りを行った。子どもたちとスイカ割りをするのは学生も教員も初めてであったため、割るための棒の材質を何にするのか、子どもたちがたいてみたくなるような棒のデザインはどうするのかなどをゼミ内で話し合いを重ね、衛生面に気をつけながら製作した。衛生面については保育所とも相談を行った。当日、なかなか割れないスイカだったが、ようやくスイカが割れると、「いいにおい！」と子どもが思わず発した言葉が、とても印象的であった。

昨年度から訪問しているため、子どもたちは学生たちの訪問にも慣れてきており、劇が始まる前から、学生に話しかけたり学生に近づいたりする子が見受けられた。また子ども達だけでなく、保育士の方々の笑い声も聞かれ、終始和やかな雰囲気を実施することができた。また夏の風物詩であるスイカを持参し、スイカ割りを行ったが、保育所で今年始めてスイカを食べたようで、子どもたちは食事の前も、食事の後も喜んでスイカを食べていたということをお聞きした。食べ物を持ち込むことに対して、様々な工夫や配慮が必要であったが、子ども、職員、学生が共に楽しく過ごすことができたのではないと思われる。



写真1 音楽劇「おおきなかぶ」の一場面



写真2 子ども達が「目隠しをしたい！」と希望して目隠しを手伝っている場面

【第2回目：2025年11月5日(水)から6日(木)

ゼミ生6名、教員1名】

今回はこれまで訪問してきた輪島市立松風台保育所に加えて、穴水町にある光琳寺保育所と神杉保育所も訪問した。まず1日目は午前と午後に穴水町にある2園において、音楽を盛り込んだ劇(人形劇)「おおきなかぶ+サツマイモ(創作)」を披露し、その後、子どもたちと遊んだり、昼食やおやつと一緒に食べさせていただいた。2日目は輪島市立松風台保育所の園児たちと“もんぜん児童館”を訪問し、パラルーンやスカーフなどを用いて音楽に合わせて体を動かす活動を行った。

活動後、ある園の園長から手紙をいただき、そこには「子どもたちが無邪気に過ごすことができました。それは貴方達が無邪気な世界が好きだし、楽しむこ

とを知っているからです。子どもたちをその世界に誘ってくれたからです。感謝申し上げます。園長」と書かれていた。保育士になる学びを積み上げ、保育実習も経験した学生たちだからこそ子どもたちが無邪気に遊ぶ時間をつくれたのだと実感することができた。



写真3 隆起した海岸を見学した際の一枚



写真4 パラバルーンを用いた音楽活動の一場面

【第3回目：1月22日(木)雪のため来年に延期】

令和6年1月1日から2年が経過したものの、まだ地震に関する記憶が色濃く残る中で、地震発生時期に訪問する必要があるのではないかと考えている。そのため、昨年度と同様1月に訪問する計画を立てた。しかしながら、計画していた日が大雪予報となり、大学の期末試験が延期や遠隔での実施に変更される中で、学生の安全等を踏まえ、園と相談して延期することとした。

今回の活動では、「だるまさん」を題材に、ペットポ

トルのキャップを足につけた児童文化財(写真5)を製作し、リズムカルなわらべうたの替え歌をつくったり、子どもたちが応答したくなるようなオリジナル台本を作成したり、クラシック音楽を生かした身体表現を取り入れたりした内容を考えていた。

こども学科の幼保系3年次学生は、2月から3月にかけて保育実習Ⅰ(施設)における施設実習を行っているため、今年度の実施はできなかったが、来年度の早い時期において訪問することになっている。

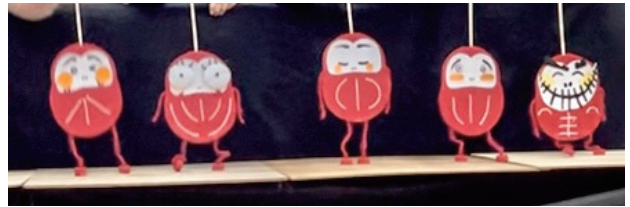


写真5 学生が製作した多様なだるまさん

今後の課題と展望

令和6年能登半島地震の発生から2年が経過した。この2年間に於いて学生とともに園を訪問できた回数が多いとは言えない中で、“私たちには何ができたのだろうか”“何ができるのだろうか”という思いを持ち続けている。

今年度、昨年度から訪問させていただいている輪島市立松風台保育所に加えて、ご縁のあった穴水町にある光琳寺保育所と神杉保育所も訪問した。訪問する中で、前述したように「子どもたちが無邪気に過ごすことができました。(略)」といった言葉をいただいた。この言葉をいただいたことにより、“こどもスペシャリスト”を目指し、子どもを大事に思い、子どもについて専門的に学んでいる学生だからこそ、子どもが子どもらしく無邪気にいられる空間をつくることができているのだと学生ともども感じることができた。今後も学生とともに、子どもや保育者に“楽しい”を届ける活動を行っていきたい。